

校長室だより～和光高校今昔 第33号 H26.12.19

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

和光高校PTAについて

エアコン導入に象徴されるように、和光高校PTA・後援会は生徒たちのことを第一に考えていただいているどこの学校にも負けない組織である。このことは開校以来の様々な歴史が如実に証明してくれている。

昭和47年、1期生保護者の方々を中心に組織されたPTA・後援会は初代である山崎正治PTA会長と柳下和夫後援会長を核に、①学校家庭間の連携 ②新設校づくりへの物心両面の協力 ③規約策定という難問3課題について親身となって取り組んでいただきました。献身的なお力添えは、部活動の振興と学習環境の整備について大いなる原動力・推進力となりました。この勢いは昭和52年に端を発する並木利志和、高倉久、林英夫PTAあるいは後援会長らのご尽力によって、和高会館（食堂と合宿所）と部室建設に結実しました。リスクを顧みず文字通り身体を張り上記②の具現化がなされたわけです。

同時期の昭和55年12月に現在114号を数える「和光高校PTAだより」が創刊されました。当時の大野好治校長の感謝の辞と前述林PTA会長の「感無量」の記事は今読んでも胸が熱くなります。未踏の一步を刻む主管されるPTA広報委員の方々のご苦勞は並大抵ではなかったと推察されますが、そのスタイルは30年以上経過する現在でも色褪せることなく引き継がれています。ちなみに創刊号（B5版6ページモノクロ）の内容は以下の構成でした。

【表紙】題字、号数、発行、日付、写真「和高人（わこうど）」、校歌

【2ページ】「創刊にあたって」大野好治校長・林英夫PTA会長・加賀谷成二後援会長

【3ページ】地区PTA：各地区責任者から

【4ページ】職員紹介…全職員の顔写真

【5ページ】学校から（生活指導部・進路指導部）、広報委員会より

【6ページ】1年生臨海学校報告、2年生修学旅行報告、部活動の状況、編集後記

写真等も豊富で何よりも洗練されたレイアウトが光ります。9名の編集委員の方々の卓越したセンスが秀逸です



広報誌は和光高校の歴史を辿る時の欠かせない財産となっています。拙文を書くに際し20周年記念誌と若樹そして広報誌の存在は不可欠なアイテムでした。歴代の委員の御労苦に改めて感謝申し上げます。

さて、当然ながらPTA活動は広報活動だけにとどまりません。マラソン大会（強歩大会）に係るご支援には頭が下がります。運営まで携わっていただく機会はなかなか生じませんが、ご声援も含め良き伝統となっているようです。文化祭におきましてもバザーを主管されまさに物心両面から援助していただいています。これらはすべてボランティア活動になるわけで、いかに教育活動にともに向き合い共に歩んで来たかの実証でもあります。



個人的には、昭和63年度にPTA会長を快諾いただいた佐野光司氏が印象に残っています。おそらくは渉外部長であった北村先生の依頼の結果と思われませんが、地元で太郎寿司の大将として公私に渡り面倒みよく若手職員を導いてくださ

っていた氏が、忙しい中会長職を引き受けてくださり、当時苦慮していた生徒指導を先頭に立って対応していただきました。後ろ姿に勇気づけられた若い先生方も多くいたはずでしょう。現在でも地元のご意見番として貴重なアドバイスをいただいています。

現職の田中寿広PTA会長の活躍ぶりは西部地区はおろか県内各校に鳴り響いています。校長仲間からは楽しそうで羨ましいと何人もから言われます。会長さんの求心力に基づく強固な一枚岩のPTAこそ和光高校が築き上げた歴史だと考えます。歴代の役員の方々・会員の方々に厚く感謝申し上げますとともにこれからもご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

